

KLIS TODAY

No.
38

筑波大学 情報学群 知識情報・図書館学類


〒305-8550 つくば市春日1-2 Tel 029-859-1110 Fax 029-859-1162


URL <https://klis.tsukuba.ac.jp/> E-mail klis-info@inf.tsukuba.ac.jp


オンライン授業に関する学生のつぶやき


宇陀 則彦 編集


6月15日(月)から26日(金)までの間、ハッシュタグ#KLIS_COVID_19をつけてTwitterでつぶやいてもらったところ、176のつぶやきがありました。この中から肯定的つぶやきと否定的つぶやきが半々ぐらいになるよう抜粋しました。KLISの今日が見えます。


- 


土曜授業がしんどいです。土日かけて課題をすすめるところを土曜日が潰れ、その土曜日にも新しく課題が出て結局日曜日も休めずの繰り返しです。あとそのおかげで休息が十分とれていません。
- 


ずっと家にいるから授業と普通の生活が切り分けられないって言うてる人もいるけど、去年ベッドの上でパソコン開いてだらだらレポート書いてたのに比べれば、ちゃんと机で講義動画見て休む時はベッドに移動してる今の方が切り分けられてる気がする。
- 


図書館が使えなくてキレそう。
- 


課題や授業自体の負担もありますが、それよりは友達や先生に直接会って分からないところを聞いたり、ワイワイ課題をやったりできないストレスが大きいのかなあ...と思います。
- 


オンデマンドで授業動画が公開されているのはとても良いと思う。再生速度を選べるし、途中で停止させてメモを取ることができる。
- 


受験期のような、家でもどこでも常に「勉強(授業/課題)をしなければならぬ」という意識に追われていて気持ちが休まらない。
- 


オンライン授業そのものは割と頑張ってうまくできてる気がする。友人ともオンラインで情報共有できるので学習に支障はあまりない。
- 


グループ課題がやりづらいな...
- 


正直いまの生活が良すぎてオフライン授業に戻れる気がしない。朝時間通りに起きてごはん作って身なり整えて通学ってもうわり。秋以降戻ってしまったら落単すごそう。
- 

私にとっての現在の大学講義のスタンダードは「パソコンの向こうにいる先生の話を聞く」ことであり、今まで私が考えていた大学講義の形式を未だ経験できていません。
- 

毎日8時間寝ているし、Switchやスポーツ観戦を楽しんでいるのでストレスを感じないけど、いわゆる大学生活は経験してみたい。
- 

7A205で休み時間にお菓子わけっこしたり空きコマにフリสบで皆でうたうだしたりアイス食べたり機室で虚ろな目で課題したりすることがないことに突然絶望する瞬間がある。
- 

自室という環境は教室という環境より快適だと感じる。「他人がたくさん居る」という心理的圧迫がないためである。
- 

講義に対する学生の考察を確認したいならば、小テストなどにそのような畏をしかけるのではなく、論述式のレポート、もしくは記述式小テストの手動採点にしたい。
- 

より気軽にメールで質問するようになった。同時に、ちょっとだけ先生方の心配をするようになった。大学に限らず、世界中の先生の負担。

(うだ・のりひこ 知識情報・図書館学類 教授)



オンライン授業と私

池内 淳

私個人にとってオンライン授業の唯一にして最大の問題は、授業資料作成のためにかなりの時間を要してしまうという点でした。5月中はまだ他の先生方の公開された授業動画を視聴したり、正規の授業開始時間の24時間前には授業の準備を完了できていましたが、6月に入ると完全に撮って出しの状態になってしまい、昼夜を問わず土日といわず、授業の準備に追われていたように思います。また現時点では、対面授業をオンラインに置換しようとしただけという印象は拭えませんが、今後、経験を蓄積していくことで、オンライン授業固有の価値を体現できるようになるものと期待しているところです。多方面で世界のカタチが変わっていくなか、その変化の片鱗を実際に体験できたことは、個人的にとっても良い経験になったと思っています。



図 はじめて Stream にアップロードした動画「うしのなきこえ」

(いけうち・あつし 知識情報・図書館学類 准教授)

武田 千佳

突発的なオンライン授業への対応に先生方は苦慮したことと思います。学生である私にも問題は生じました。動画共有サービスを用いた授業では、周囲の生活音によって音が聞き取れない、ネット接続が不安定になるなど視聴環境に不便を感じました。動画や資料が掲載される授業では、モチベーションの維持が大変でした。大学構内での授業は75分ごとに休憩時間がとられメリハリがついています。一方オンライン授業は自分で時間を管理して学習を進めるので、集中して休憩をとるタイミングを逃すこともあれば気が緩みすぎることもありました。オンライン授業には利点もあります。動画の停止・巻き戻し機能を使えば、繰り返し視聴でき聞き逃すことはなくなります。ただ、繰り返しすぎると本来の授業時間内に視聴し終わらないことがあるので注意が必要でした。

(たけだ・ちか 知識情報・図書館学類3年次)

身近なものとしての「法」

高良 幸哉

皆さんは「法」や「法律」と聞いてどのような印象を受けるでしょうか。そもそも「法」というものに関して特に意識することもないかもしれません。ですが実際には、「法」は私たちの社会における制度や様々なインフラに係わる、私たちにとって身近なものです。

皆さんの多くがSNSを利用しており、ゼミやサークル、プライベートでも利用していることでしょう。新型コロナ対策の影響で、オンラインでの会合も増えたのではないのでしょうか。そのような中で、現在、SNS上での名誉やプライバシー侵害、誹謗中傷が問題になっています。SNS上での誹謗中傷による痛ましい事件は後を絶ちません。また、SNSの情報から個人が特定され、オンライン・オフラインでのストーキング等を受ける危険もあります。

情報機器とネットワークの普及は、私たちに膨大な情報の入手や、様々な表現活動を可能にしました。その負の側面として、私たちは他人を傷つける「加害者」として、あるいはその「被害者」としても、権利侵害の当事者に容易くなりえます。また動画共有サイト等で、著作権違反などの「犯罪行為」すら容易に行えるのが現状です。

「法」は私たちのコミュニティを規律し、究極的には私たちの権利と自由を守り幸福を実現する、人と人との衝突を回避するための調整役です。皆さんにも、自分を守り、他者を傷つけないために、まずは身近なSNS上の表現から、「法」について自身の問題として考えてもらえればと思います。



着任のご挨拶：2020年1月に着任いたしました、高良幸哉と申します。専門は情報法と情報刑法であり、ICTにかかわる法研究、ネット上の児童・青少年の人権などを研究対象にしています。学類の授業では「情報法」「情報社会と法制度」などを担当します。どうぞよろしくお願いいたします。

(たから・こうや 知識情報・図書館学類 助教)

サバティカル報告

松本 紳

一昨年、定年まで残り二年なので、最後のチャンスとばかりにサバティカルを取得し、イギリスのウォーリック大学に行ってきました。実はちょうど30年前（昭和から平成に変わった時）に2年間、ウォーリック大学の客員研究員だったので、また古巣に戻ってきた感じでもありました。ただ、当然のことではありますが30年もたてば新しい建物が増えたり、昔とはずいぶん様変わりした点も多かったです。イギリスの大学というと、オックスフォードやケンブリッジのような中世からある伝統的な大学を思い浮かべるかもしれませんが、ウォーリック大学は、1965年創設の新しい大学です。一説には、筑波大学の開学時に参考にした大学の一つだと聞いたことがあります。確かにキャンパスの規模や学生数など筑波大学と似たところが多くあります。大学ランキングではイギリス国内で8位から10位くらいに位置し、そういう点でも筑波大学と似ています。

さて、ウォーリック大学に行ってみると、約半分近くが留学生です。アジア系、アフリカ系、アラブ系、インド系など、あらゆる国から来ています。もっとも、ウォーリックの教授に聞いたら、アジア系は中国人が多く、日本人は少ないとのことでした。多分、日本人はオックスフォードとかケンブリッジ、あるいはロンドンの大学などには多くいるようですが、地方の大学はあまり人気がないのかもしれません。しかし、イギリスの本当の良さを味わうのであれば、是非、このウォーリック大学はお勧めです。



ウォーリック大学は、イギリスの中央（バーミンガムの近く）に位置する。
コッツウォルズやシェークスピアの生家のあるストラットフォードアポンエイボンなどにも近い。

（まつもと・まこと 知識情報・図書館学類 教授）